

日本新聞製作技術懇話会
広報委員会編集

編集人 桑江 暢也
東京都千代田区内幸町
日本プレスセンタービル
8階 (〒100-0011)
電話 (03) 3503-3829
FAX (03) 3503-3828
<http://www.conpt.jp>

CONPT

CONFERENCE FOR NEWSPAPER
PRODUCTION TECHNIQUE JAPAN

VOL.39 No.3
2015.7.1
(通巻 232 号)

日本新聞製作技術懇話会
会報 (隔月刊)
(禁転載)

第22回 新聞製作技術展

JANPS

JAPAN NEWSPAPER PRODUCTION SHOW

2015

未来につなぐ
新聞技術
— 今より明日へ

【会期】2015年7月22日(水)~24日(金) 10:00~17:00 入場無料

【会場】東京国際展示場 (東京ビッグサイト)

主催/日本新聞協会 協賛/日本新聞製作技術懇話会 (CONPT-JAPAN)

<http://www.janps.jp/>

目次

新会長ご挨拶	日本新聞製作技術懇話会 会長	上坂 義明	3
退任のご挨拶	日本新聞製作技術懇話会 前会長	芝 則之	4
創立40周年式典			5
CONPT TOUR2015の見所	日本経済新聞社OB	三宅 順	6
新局長に就任して	新潟日報社 印刷局長	保科幸太郎	8
	日本経済新聞社大阪本社 製作本部長	矢木 正哉	9
楽時万才	中日新聞社 技術局局次長	水野 旬	10
	(株)東京機械製作所 第一事業部理事国内販売グループ 営業部長	都並 清史	11
わが職場あれこれ	山形新聞社 システム局メディア部副部長	堀田 祐介	12
	(株)トッパンメディアプリンテック東京 日野工場長	高橋 薫	12
JANPS2015 セミナースケジュール			13
第7回CONPTセミナーのご案内			18
CONPTツアー合同再会パーティーのご案内			18
第41回定時総会開く			19
CONPT日誌、新着資料 他			19
JANPS会場見取図			20

●表紙写真提供：「JANPS2015 ポスター」

産経新聞印刷・営業・編成担当 星野 壮太氏

●表紙製版：(株)デイリースポーツプレスセンター

●組版・印刷：(株)デイリースポーツプレスセンター

会長就任のご挨拶

日本新聞製作技術懇話会 会長 上坂 義明

この度、伝統ある日本新聞製作懇話会の会長に就任しました。関係者の皆様にはどうぞよろしくお願い申し上げます。懇話会が発足して40周年を迎えますが、芝前会長を引き継ぎ、数えて4代目となります。紙上をお借りして、自己紹介、今後の懇話会運営、間近に迫りましたJANPS2015について、お話しさせていただきます。

＊

はじめに、上坂と書きますと、「カミサカ」と呼ばれる方が多いですが、「ウエサカ」でございます。よろしくお願いいたします。私は、1951年(昭和26年)兵庫県尼崎市に生まれ、正真正銘の関西生まれの関西育ちです。昭和49年サカタインクス(当時 阪田商会)に入社しました。入社当時は、商業印刷部門の担当となり、インキ、製版材料のPS版・フィルムの販売を行っていました。高級飲料のラベルの再現性の向上など印刷品質向上の提案なども行っていました。その後、1982年(昭和57年)に東京転勤になり、新聞印刷部門の担当となりました。その時以来、全国の新聞社との付き合いを深めさせて頂いております。東京転勤時は、「オフ輪の夜明けの時代」でした。当時のオフ化率は約3割、1986年に約5割、2003年には完全オフ化となりました。古い話になりますが、オフ輪化も、凸輪機をベースにしたダイリソ印刷、レターオフ印刷、及び現在の輪転機のベースとなったオフ輪機などの混在期があり、インキメーカーも新聞用オフ輪インキの開発に苦労しました。今にして思えば産みの苦しみの時期を過ごしていたよ



うに思います。深夜立会い後の新聞社前の屋台で新聞社の方々と熱く語りあかしたのも良い思い出です。趣味は、全国各地のグルメの食べ歩きと美味しいお酒を飲む事です。また、自慢めいて恐縮ですが、ゴルフのオリンピックゲームと9割以上の勝率を誇るマージャンが特技です。

＊

さて、懇話会はこの度40周年を迎えました。この間、新聞製作は大きな転換期ではありましたが、新聞社主導のもと、懇話会員各社一丸となり、良い着陸点を見つけられたように思います。ここ数年では、4×1輪転機、モニターブルーフ、高精細分解、高濃度インキの応用などの提案が出てきています。今後とも、業界を取り巻く環境は一層厳しくなると考えられます。懇話会の強みを最大限に発揮して、新技術による品質向上、コスト削減策を始め、新聞社との会話を増し、「新聞というメディア」を軸に新聞社が新たなビジネスに幅を広げられるような提案も行っていく予定です。新聞業界の発展に貢献出来るように懇話会の組織作りも進めていきたいと考えています。

＊

この7月22日から3日間、日本新聞協会主催による第22回新聞製作技術展「JANPS2015」が開催されます。新聞社関係7社、懇話会加盟社33社、非加盟社9社、合計49社が出展予定です。開催テーマ「未来につなぐ新聞技術—今より明日へ—」に対して、最新の技術、効率化を求めたコスト削減策、紙面品質向上の提案が発表されます。皆様には是非ご来場頂き、新聞社と出展社の会話を活発に進めて頂きたいと思っております。さらに、この機会が将来の新聞製作を考える契機になればと考えます。

会長退任にあたって

日本新聞製作技術懇話会 前会長 芝 則之

初代岡村雄一会長が26年間(1975～2001)、二代目原哲夫会長が2年間(2001～2003)会長を勤められた後、12年間三代目の日本新聞製作技術懇話会(CONPT)会長を務めさせて頂きました。長いようでもあり、短いようでもあった12年間でした。たまたま、CONPT創立40周年にあたる節目に会長を退任することになりましたのも何かの縁(えにし)かと思っています。まずは、ご指導・ご協力いただいた新聞協会幹部の方々、CONPT評議員、事務局の皆さんを始め関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。



*

私が新聞業界のお世話になるようになったのは、今から50年ほど前になります。東京オリンピックが終わった直後の大不況時でありました。しかしながら、その後の半世紀の間、新聞製作技術の進化は素晴らしいものがあります。CTS化、省人省力化、オフセット化、カラー化など数え切れないほどの技術革新を乗り越えてきました。この間CONPTが新聞社の関係者の方々と力を合わせて新製品開発のきっかけを作ったのが、JANPSとCONPTツアーではなかったでしょうか。

第一回目のJANPSは昭和47年にスタートしましたが、当時、私は一技術者として参加しました。大きなテーマはCTS化、自動化・省力化でした。その後、オフセット化に伴い、カラー化が進みタワープレスの全盛時代になりました。技術革新の中心的な役割を果たしてきたのが、JANPSでありました。2年に一度の展示に向けて各社が鎬を削り、将に切磋

琢磨する場所でした。JANPSが終わるとすぐ、次はどんなものかと考えるのが楽しみでもあり、これらの大テーマのほとんどの企画できたのは幸いでした。

CONPTツアーも大きな役割を果たしました。これは毎年のイベントでありますので、関係者は準備段階から大変です。実は私は、一度もこのツアーに参加していません。理由はいくつありますが、ツアーの行き先というのはANPA・IFRA・DRUPAなどの展示会見学が中心です。一方の私は展示側の責任者を仰せつかっていましたので、ついつい、皆さんと一緒できませんでした。現地では皆さん方と合流していくらかのご案内ができたかと思っていますが、いずれにしても会長が一度も参加しなかったの言い訳無用です。遅まきながら誌上を借りてお詫びする次第です。

*

さて、これからのCONPTの使命を考えると、技術革新を通して新聞製作の合理化に貢献することでしょう。新しいMEDIAに対抗することも大事ですが、読者に信頼されている今の新聞の価値を十分伸ばすツールとして、新聞製作技術の革新を進めていくべきです。古いMEDIAであったラジオ・テレビは未だに重宝に利用されています。この業界がマイナス成長を続ける中、CONPT会員社は全力を挙げて、新聞製作コストの低減や設備の長寿命化の提案を続けてきました。もう限界だという声も聞こえますが、上坂義明新会長のもと、技術懇話会の名前にふさわしく技術についての問題を打ち解けて話し合う場として、お互い知恵を出し合い、この厳しい環境を乗り切って行かれるよう願っています。

和やかに CONPT40 周年祝う

CONPT創立40周年を記念して、5月15日(金)午後4時からプレスセンター内レストラン「アラスカ」を借り切りパーティーを開いた。定時総会と新聞協会技術委員会開催日に合わせたこともあって、出席者は160名を超える盛会となった。招待者の内訳は技術委員の方42名、歴代技術(工務)委員長6名、新聞社関係印刷会社から11名、新聞協会9名、会友12名、会員社69名などで、東京ビッグサイトや科学技術館、専門紙幹部も出席し多彩な顔ぶれ。「40周年とはすごいこと」との声が会場のあちこちから聞こえた。

冒頭あいさつに立った芝則之会長は、新聞社と製作技術業界の40年を振り返り「今CTS、カラー化、省人化など技術の積み重ねがあり、それを叶えたのがコンピューターであった」と前置きし、「最近ではスマホ、パソコンに押されて危機意識を覚えているが、古いメディアが新しいメディアに追い払われることはかつてなかった。新聞メディアは永久に残る」と強調した。



さらに「私は会長を退いて、元気の良い上坂義明新会長にバトンタッチした。今後もCONPTはお役に立てるよう頑張っ

て参ります」と、新体制に後事を託した。

来賓を代表して木村泰史技術委員長(毎日新聞執行役員技術本部長)があいさつ。40年前の鉛の世界には「CTSもCMSもネットワークもなく、今は紙と電子が一体となっているがまだ手探りの状態。しかしこれ位変化を遂げた時代はなかった。これには多種多様のメーカーの技術が関わっており、CONPTあつ

てのこと」と感謝の言葉を述べた。「モノ作り日本には摺合わせの妙がある。斜陽化とは言いながらも生き残り続けるという意志が必要で、CONPTは新聞界のテクノロジーとイノベーションに加わっていただきたい」と引き続き協力を求めた。乾杯の発声は川嶋明新聞協会専務理事で「逆風に立ち向かって、新たな創造を期待したい」と杯を挙げ、しばし新聞界と製作技術業界、OBらの歓談の輪が広がった。

その後、上坂新会長が就任あいさつ。自己紹介し「サカタインクスに昭和49年に入社し33年間新聞業界にお世話になってきた。環境厳しい新聞業界ですが、恩返しの気持ちで今一度上昇させるため何ができるのか、CONPTの組織をどうしていけばいいのか、考えて行きたい」とし、さらに「色々なメーカーがコラボして新しい技術・アイデアを提案して、新ビジネスの手助け役を担いたい。新聞社とCONPTがもっと対話して、もう一度両業界が盛り上がり行くのが目標だ」と力強く抱負を述べた。

新聞社製作幹部とCONPT会員社首脳が一堂に揃う機会をとらえ、平井泰之(クラブ)、矢森仁(企画)、桑江暢也(広報)の三つの委員会委員長が壇上に登り、それぞれの業務内容と第22回JANPS(7月22日～24日)への取り組みを説明した。

1時間半にわたるパーティーの後、藤間修一副会長が中締めを行いお開きとしたが、少なからぬ人々が会場に残り午後6時過ぎまで歓談を続けた。(事務局)



CONPT-TOUR 2015の見所

第45回 World Publishing Expo (WPE) 2015が10月5日～7日の3日間、ドイツの港町ハンブルクで開催される。今年のCONPT ツアーはこのWPEと北欧の新聞社3社と製紙会社1社を見学する予定だ。訪問国(都市)はドイツ(ハンブルク)、フィンランド(ヘルシンキ)、ノルウェー(オスロ)である。



今年のツアー最大の注目点は印刷新聞の部数減に苦しむ米英の新聞社が「記事にどうやって課金するか」の議論を続けている中で、少し違った方向に向かって果敢に挑戦する欧州のメディア企業を訪問することだろう。中でも新聞社のブランド力や資金を使い、電子版やニュースサービス、オンライン広告などのオンラインビジネスによって収益をあげている北欧メディアの試みを実際に見聞することは意義深いものとなるだろう。

以下に視察訪問先の概要・見所を順に紹介する。なお、製紙会社についても見学したいと考えており現在交渉中だ。

World Publishing Expo 2015

WPEとはWAN-IFRAが主催し、世界的な規模で新聞やニュースメディアのための最新



日本経済新聞社 OB 三宅 順の技術を紹介する技術展の一つである。昨年はオランダのアムステルダムで開催され、出展社は世界29か国から225社あり、会場を訪れた人は7000人以上であったという。今年は2010年の開催に続くハンブルクでの3回目の開催となる。同市はドイツ第2の都市でEU内でも8番目に大きな都市である。市内には国際的な規模で展開するリーディングメディア、IT企業など23000社を超える情報産業関連の企業が存在する。

この技術展には例年、80か国以上の国と地域から1万人以上の関係者が訪れて最新の技術を視察するほか、100人以上の講演者が出席して様々な会議や講演・イベントなども行われる。

最近のWPEの展示内容の特色は新聞の印刷発行に関する技術以外に、オンライン、モバイル、タブレットにニュース・広告を提供する新技術の展示が増えているということだ。

Helsingin Sanomat(ヘルシンキ サノマツト)

HELSINGIN SANOMAT

フィンランドは国土面積が33.8万km²と日本よりやや狭い。人口は543万人、公用語はフィンランド語とスウェーデン語である。

同社は1889年に設立され、フィンランドの首都ヘルシンキに本社がある。北欧では最大級の新聞社でHSと略される。日本語ではヘルシンキ新聞と訳されることがある。同紙はフィンランドをはじめ欧州各国に事業を展開するメディアグループ、サノマ社が所有している。

新聞の発行部数は年々減っているようで、かつては全人口の8%にあたる40万部以上を

発行し北欧で最大の発行部数を誇っていたが、2003年スウェーデンのアフトンブラーデットに追い越され、2014年には28.5万部(日曜版は32.1万部)にまで減ってしまった。2013年にはタブロイド判に変更している。定期購読が97%を占める。

一方、ウェブサイトの電子版は1999年から2012年の間、フィンランド語と英語のオンライン新聞が発行されていた。しかし、2012年11月にいわゆる「ペイウォール」が構築され、現在はiPad版を毎日発行している。また、他のモバイルデバイスからも同紙のコンテンツは閲覧することができる。同国では新聞ウェブサイトがニュース取得のもっとも重要な方法の一つで、2010年には同社のサイトに1週間で123万人以上が閲覧している。

Alma Media (アルマ メディア)

同社もヘルシンキ市内に本社がある。デジタルサービスと新聞が中心のメディア企業だ。設立は1846年のSuometar紙の



発刊だ。2005年には放送事業を切り離し、新聞・ビジネス情報・オンラインサービスに集中し始めた。現在、同社はニュースサービスに加え、ライフスタイル、求人、事業開発に関連する情報を提供している。同社のサービスは北欧諸国のフィンランドからバルト諸国、中央ヨーロッパにまで拡大している。よく知られるサービスにはAamulehti、Iltalehti、Kauppalehti、Monster.fi、Etuovi.com、City24などがある。約1900人の社員がおり、2割以上の人たちがフィンランド国外で働いている。

同社には新聞・Kauppalehti Group・デジタルコンシューマサービス・その他の4つの事業分野がある。新聞事業では、夕刊紙Il-

talehti・5の地域紙・29の地方紙とオンラインビジネスが含まれる。Kauppalehti Groupはフィンランドの主要なビジネス紙Kauppalehtiを発行する。また、Alma 360 Custom Media、バルト諸国やスウェーデンで通信事業を展開するBNS Groupなどが含まれる。

なお、同社は2004年、富士通にデータセンターの集中管理・運営、クラウド対応サービスを発注している。このICTサービスによって、作業の効率化とコスト削減が大幅に図られたという。

Schibsted (シブステッド)

ノルウェーは国土面積が38.6万km²と日本とほぼ同じ、人口は515万人、公用語はノルウェー語である。Schibstedの正式名称はSchibsted Media Groupといい、首都オスロに本社がある。同社は1839年に設立され、複合メディア企業として世界中に6800人の従業員を抱え、31か国で事業を展開している。その事業分野は新聞、オンラインクラシファイド(広告)、出版、マルチメディア、モバイルサービスなど多岐にわたる。国内ではアフテンボステン(朝刊22万部)、ヴェルデス・ガング(18万部)、アフテン(夕刊9.6万部)などを、スウェーデンではアフトンブラーデット、スベンスカ・ダークブラデットを発行している。また、スイスでは20 Min Holding AGを傘下に、20分で読める無料紙をフランスやスペイン向けに発行している。



オンライン広告分野にはSchibsted Classified Media (SCM)があり、西欧だけでなくアジアや南米などでもウェブサイトを運営中である。この分野は全体の収入の25% (2012年度)を超えるまでに成長しているといい、特に力を入れている分野だ。

オンライン広告分野にはSchibsted Classified Media (SCM)があり、西欧だけでなくアジアや南米などでもウェブサイトを運営中である。この分野は全体の収入の25% (2012年度)を超えるまでに成長しているといい、特に力を入れている分野だ。

新局長に就任して

厳父慈母

新潟日報社 印刷局長

保科 幸太郎



オープン9カ月で来館者8500人。新潟日報社黒埼本社に昨年9月誕生した見学施設「おもしろしんぶん館」がうれしいことに好評だ。博物館、資料館にせず、生きた新聞づくりを見せる一との狙いで、新聞がどうやってでき、家庭までどう届けられるかを伝えることに努めた。NIEで学校単位の見学が多いが、町内会や高齢者、施設入所者のグループも訪れる。

印刷センター廊下の壁面を生かし、新聞の中に入り込んだような空間にした。カラー印刷の4色にちなみ、取材、整理など編集部門はシアン、販売、事業などを紹介し「どきどき！しんぶんシアター」と銘打つ映像を見せるイエロー、印刷・発送はマゼンタと黒一にゾーン分けしている。

CYMKと歩いた最後が輪転フロアを見下ろす廊下になる。見学窓は一部を開閉式にした。輪転機の音、インキのにおいを体感してほしいとの思いからだ。夕刊印刷時間帯の見学者からは歓声が上がる。「すごい」「大きいね」。見学コースのクライマックスだ。

＊

私の小学5年生の遠足は新潟市内の施設めぐりだった。平成の大合併で県都に組み込まれたが、生まれ育った町は蒲原平野のど真ん中だった。

港、空港、県庁などとともに新潟日報社もコースに入っていた。市の中心部にあった旧社屋。そこで初めて見た輪転機は今も鮮明に

覚えている。

50年近く前のことだ。スマートな今のタワー型に比べれば、むき出しの部分が多い武骨で古武士のような機械だった。あのときにどんな説明があったのか、そもそもどうやってあの場所まで案内されたのだったか。記憶にあるのは、うなりを上げて新聞を刷っていた淡い青緑色の輪転機だけだ。

後日、遠足の絵を描くことになったとき、迷わず輪転機を題材に選んだ。クラスメートたちが飛行機や貨物船を描いた中、一人だけだった。存在感を与えていた機械の色と、吐き出される紙の勢いをどう描くか悩んだことを覚えている。後年を含め絵が褒められた記憶はないが「力強さが出ている」と張り出された。

白状すると、私は新聞を読む子ではなかった。そんな子どもにとって輪転機との出会いは新聞を、新潟日報を身近に感じるきっかけとなった。

＊

見学者が輪転機に釘付けになるのは、単なる「機械萌え」ではないように思う。新聞が生まれる瞬間に立ち会い、輪転機のパワーに今を伝え、時代を伝える新聞が持つエネルギーを感じるのではないか。自らを振り返り、そんな気がしている。

紙面づくりの場で「製造物責任」を説いてきた。印刷現場では「商品としての責任」を呼び掛けている。記者、カメラマン、整理マンたちの共感や思いを、印刷マンが形にしていく。品質、時間、そしてコストにも目配りが欠かせない。

検紙に注ぐ厳しい視線と、発送場でのわが子を送り出すようなこまやかさ。新聞に携わる者の信念と愛情。「厳父慈母」と言ったら、また彼らに「古い」と笑われるだろうか。職人肌の心優しい仲間と仕事ができることを誇らしく思っている。

38年目のリスタート

日本経済新聞社大阪本社
製作本部長

矢木 正哉



今から38年前の1977年（昭和52年）——。ダッカで日航機ハイジャック事件が起き、北海道では有珠山が爆発、王貞治選手が通算756号ホームランを放った年です。アメリカではアップル社が産声をあげています。

この年、日本経済新聞社大阪本社は大阪市中央区高麗橋から、同じ中央区の大手前に社屋を移転しました。坂を数分登るとすぐに、大阪城の天守閣が目に見え、静かな街です。そこに本社工場ごと新しい拠点を構えました。日経の新聞製作が鉛の活版からコンピューターに移行する最中のことです。

それから干支は3巡りし、今年5月、日経大阪本社は高麗橋に戻ってきました。取材センターとして使っていたビルを取り壊し、新本社を構えたのです。4月に東京製作局から大阪製作本部へ赴任した私の最初の仕事は、社屋と上流系制作システムの移転でした。現場の入念な事前準備が実り、初日の5月7日組からトラブルゼロで発行できています。

＊

高麗橋は「東の兜町、西の北浜」といわれた、かつての証券街の一角に位置しています。街はすっかり様変わりしていて、証券会社の数は激減し、オフィスとマンションが混在する街になっています。そして、38年前との一番大きな違いは、印刷工場（日経西日本製作センター）は高麗橋に移らず、大手前にそのまま残ったことです。

全国の新聞社を見渡すと、本社と工場が離れた場所にあるのは、珍しい光景ではなくなっています。日経東京本社では27年も前に本

社社屋から輪転機がなくなりました。とはいえ、物理的な距離が開くと、さまざまな場面で遠心力が働きがちです。

私はかろうじて、本社に輪転機がある時代を経験しました。駆け出しの校閲記者の仕事のひとつに「削り」の指示書を、輪転場に届けるというものがありません。降版後に見つかった記事の間違いや誤字を、フィルムで削ってもらうのが「削り」です。大急ぎで階段を駆け下り、刷り出し直前の印刷部に「削り」をお願いするのです。指示書を手渡して、ハーハー息をしていると、あっという間に削り処理が終わり、轟音とともに輪転機が回りだします。工場の息遣いに触れる貴重な機会でした。

＊

いま「現場力」という言葉をよく耳にします。「現場の強さが会社の強さにつながる」そんなニュアンスでしょうか。現場が自ら改善し進化する会社じゃないと生き残れない——これが企業のコンセンサスになっています。

ひるがえって我々新聞社の現状はどうでしょう。現場力を発揮しやすい環境になっているのでしょうか。印刷・発送など製作現場と本社や編集現場との心理的な距離は、物理的な距離に比例して、年々離れていくような気がしてなりません。

編集の現場、印刷の現場、販売の現場——さまざまな現場が密接に連携することで「こうすれば、より良くなる」「こんな新しい試みが出来る」そんな知恵が湧くはずですが、今回、日経大阪本社も工場と離れ離れになりましたが、連携を途切れさせず、互いを強く結び付けていくことが私の務めだと思っています。

いま新聞業界は大変な苦境が続いています。それでも、新聞を支える各現場が、それぞれの現場力を磨いていけば、きっと活路は開ける——そう信じています。

歳万事楽

ゴルフの練習

中日新聞名古屋本社 技術局局次長

水野 旬

名古屋本社に戻って約1年になります。前勤務先は埼玉県戸田市にある、東京新聞の印刷工場でした。長く離れていた本社の雰囲気によりやく慣れてきた5月中頃のこと、「水野ちゃん、ちょっと」と上司から呼ばれました。「何かやらかしたかなあ…」と冷や冷やしながら上司の前へ進むと、「コンプトの原稿を頼む。ゴルフの練習を始めたらしいな」ということで、ほっと一息。お恥ずかしい話で恐縮ですが、56歳になって始めたゴルフ練習の状況を報告したいと思います。

*

「腹立つなあ。全然まともに当たらない」クラブを振り始めて約1ヶ月。このところむきになってゴルフ練習場に通っています。思い切り振り回しているうちに汗が流れ落ち、周りは全く目に入らず、小さなボールをじっと見つめて真剣勝負。

時々インストラクターが回ってきて「水野さんね、何回も言いますけど、もっと力を抜いて」そして、体の回転で、グリップは軽く、ボールをよく見て、頭を動かさず等々、最も基本的なアドバイスをくれます。「わかっとるわ。そう上手くいくか…」と心の中でつぶやきながらも、それらを意識して打つのも束の間、再び自分の世界へ舞い戻って真剣勝負。

実態は、空振り、マットが飛ぶ、カスってちょろちょろ、ヘッドが地面に衝突して電気ショック、気がつくと数メートル前に、打ち損なったボールがいくつもコロコロと。情けない…それらを拾ってもう一度打ちたい。最初のうちは「周りの人が笑っているかもしれない」と思ったりしましたが、今は全く気にせず、とにかくビュンビュン振り回して、格闘技の

ような練習を展開しています。

小学校の頃はスポーツ少年団に入って、サッカーやソフトボールをやっていましたが、万年補欠でレギュラーが怪我したときの交代要員。球技はあきらめて、中学は柔道部に入りました。体が少し大きかったこともあって、高校3年生まで市や県の大会でそれなりの成績を残せました。そして大学も柔道部に入ったわけですが、これが地獄の始まりでした。意気揚々と入部したものの、全く歯が立たず上には上があることを思い知らされました。きつい稽古、恐ろしい先輩、とにかく耐えるしかありませんでしたが、なぜか辞めようとは思いませんでした。工学部だったので設計製図で各種定規を使うわけですが、そこに「逆境に耐えよ」なんて掘り込んだりして、きつい毎日を楽しんでいる自分がどこかにいたような気がします。

*

ここしばらく練習してみて、ゴルフは私が苦手とする球技でありながら、止まっているボールをひたすら打つことから、「己の心との格闘」のように感じ始めました。今は柔道と言うなら、基本の体さばきができていない、さらに心技体が整わない状態。悔しいですが、素直に認めて最低レベルを確保できるよう、練習するつもりです。

家内が五十肩対策と称して、昨年から近所の奥様らと市主催のゴルフレッスンへ通い始め、息子は職場の都合でいきなりコースへ駆り出されたものの、ひどい成績だったためにレッスン開始。そして今春から私も参戦です。

休日は3人そろって練習場へ行くことも。隅っこの3打席に並んで、親子三人がクラブを振っています。この調子で本当にコースデビューができるのか不安になりますが、とにかく練習あるのみ。「遊びのひとつ」と言い聞かせながらも、「今に見ておれ。負けてたまるか。定年後は俺のものだ」なんて思い切りのめり込んで、ひたすら振りまくっているこの頃です。

おでん屋の話

(株)東京機械製作所
第一事業部 理事 営業部長

都並 清史

「サッカーの都並さんのご兄弟ですか？」とよく聞かれる。珍しい名字のこともあり、会う人々からこう尋ねられた。あれ、今日は聞かれないかと油断していると、上司や部下が急に話を振る。落語に枕というものがあるが、若い時分は、この弟バナシから入るのが定番のような気がしたものだ。2歳下の弟、都並敏史は読売ヴェルディの選手だった。

「お兄さんはサッカーやらないんですか？」ともよく聞かれた。ゴルフをご一緒した皆様はご承知と思うが、スポーツの神様は弟にのみ、その才能を授けられた。同伴競技者をして「ショートフライ？」と嘆息させたわがドライバーが火を吹くことは稀である。

兄は何をやっていたかという、中学2年の時から40年以上トランペットを吹いている。凝り性だけど飽きっぽいという面倒くさい性格で、これまで30本ほどの楽器と100本くらいのマウスピースを試してきた。ドライバーと同じで「少しでも」と思ってしまう。貯金していたら…とは、考えないようにしている。

＊

楽器店でプロのトランペット奏者を見かけると、奏法や楽器について質問した。楽器の改造にも夢中になった。トランペットは金管楽器だから、もちろん金属製だ。この金属のパーツに、例えば焼き鈍しを施すと出てくる音も変化する。台所のガスレンジでパーツを熱してサラダオイルに漬けるのである。楽器の改造だけでは飽き足らず自分の歯もいじった。トランペット奏者にとって歯の並びとシェイプは重要なファクターだ。友人の歯科医に頼み込み、レジンという樹脂を使って前歯のデザインを微調整した。口腔内から楽器へ

の空気の流れを整えるのである。おそらく他人にはわからない。しかし、自分にとっては明らかに音が変わる。そんなことを中学生のころから続けている。

中学2年の時に突如モダン・ジャズにはまってしまった。同級生はカーペンターズだシカゴだと騒いでいたから、まあ、嫌味なマセガキだったと思う。新宿に『ピットイン』というライブハウスがあると聞き、どうしても行きたいと父に直訴した。父はそんな不良のたまり場は駄目だと反対したが、最後には黙ってついてきた。店のドアを開けると物凄い大音量が流れ出て、あそこで待っているからと、父は近くのおでん屋に消えた。おかげで、その日最年少のジャズ・ファンは憧れの渡辺貞夫さんのアルト・サックスを目の前で堪能し、腰が抜けるほど感動した。父はおでん屋で熱燗を傾けながら2時間待っていてくれた。

＊

自分でもサックスを吹きたくなった。ジャズ・ミュージシャンになるのが夢だったのだ。受験シーズンとなり、都立高校に受かったら父がサックスを買ってくれるということになった。なんとか合格して両親と東急本店の楽器売り場に向かった。確かアルト・サックスが8万5千円。微妙に高い気がした。ところが隣のトランペットは3万3千円。おでん屋のお返しではないが、ちょっと父に気をつかった。やっぱりこっちがいいやということになり、ヤマハ製トランペットYTR-135は私の物となった。実は楽器演奏の難易度からいうと、トランペットの方がはるかに難しいことを後で知った。まあ、それも含めて自分の選択だ。

その父も随分前に他界して、今はたまに母と弟と食事する。健啖家の母はジンギスカンを食した後、寿司屋のはしごにも付き合う元氣さだ。会うとやはり昔話になる。懐かしいおでん屋のエピソードを話して3人で笑うのである。

わが職場

高校球児より“熱い”夏

山形新聞社 システム局メディア部副部長 堀田 祐介

高校球児が甲子園を目指して熱戦を繰り広げる夏は、メディア部員フル稼働の季節でもある。山形新聞ではモバイル有料会員を対象に、県大会の全試合・全打席速報を実施。担当部員は連日、球場へ飛び出していく。4年前の夏の県大会からスタートした取り組みで、毎年春夏秋の県大会で速報し好評だ。特に夏、7月の会員数は突出した数字を示す。「息子が所属するチームは勝っているか」「ヒットは打ったか」。仕事が忙しいなどの理由からスタンドで応援できない親たちが携帯電話やスマートフォンの画面を見つめる—そんな情景が浮かんでくようだ。

速報担当者が野球経験者とは限らない、という悩みもある。しかし、セカンドとショートが区別できなかったという部員でも、ベテラン部員との2人組みで慣れ、やがて1会場を1人で守る戦力となる。現場ではさまざまな事件、が起こるという。パスボールがワイルドピッチが迷っているうちにプレーが進んでしまった。入力に夢中になってプレーを見落とした。パソコンのネットワークが切れて更新できなかった。同じ姿勢での作業で体の節々が痛くなった。トイレに行けなかった。昼食を食べ損ねた…。それでも、すがすがしいプレー、鮮やかな逆転劇に感激したと興奮して部員たちは帰社する。モバイル会員が求める情報をいち早く、正しく提供するのが私たちの仕事だ。今夏も5会場。高校球児たちのドラマの陰で、メディア部員の奮闘がある。

新選組のふるさとで..

(株)トッパンメディアプリンテック東京 日野工場長 高橋 薫

我々の創業の地である日野市は、「新選組のふるさと」です。副長の土方歳三や六番隊長の井上源三郎の出生地であり、「新選組のふるさと歴史館」やその他多くの関連施設があり、見どころたくさんです。今年もゴールデンウィークに「ひの新選組まつり」が行われました。そのパレードではコスプレ姿の自称土方歳三、近藤勇、沖田総司なども登場しました。

その日野の地に、弊社は1968年1月朝日新聞社と凸版印刷株式会社の合併で「日野オフセット印刷株式会社」として産声をあげました。新聞印刷のカラー化の目玉として同年9月朝日新聞「日曜版」の印刷が開始され、翌々年の70年5月から朝刊本紙の山梨県版と多摩版の印刷も始めました。

2009年4月には朝日新聞の主力工場の一つであった座間工場の運営を受託、併せて新しい建屋と設備の新日野工場を立ち上げ、2工場の新体制となりました。同時に社名も「株式会社トッパンメディアプリンテック東京(TMT)」に変更し、「第二の創業」をスタートさせました。立ち上げ時期は旧工場で生産を続けながらの研修や今までとは違う輪転機(ゴス社製)と最新の発送システムの運用に戸惑うドタバタの毎日だったことを思い出します。現在は、昨年立ち上げた全社員参加の「総合品質向上プロジェクト」を推進中です。創業50周年にあたる2018年に向け、紙面品質だけでなく読者の皆様やクライアントに本当に喜んで頂ける紙面作りに社員一丸となって取り組んでいるところです。

JANPS2015 出展社セミナー スケジュール

出展社による「JANPS会場内セミナー」のスケジュール、開催形式、お問い合わせ先は、以下の通りです。

各セミナーの詳細は、JANPSホームページ(<http://www.janps.jp/>)をご覧ください。

◇ 7月22日(水) Aゾーン

時 間	セミナー開催社並びにテーマ、問合せ先
10:45～11:30	(株)イワタ 「新聞紙面のユニバーサルデザイン =書体と色覚の配慮手法=」 * 自由聴講(事前申込不要) (資料の準備上、ご参加者の社名、氏名を事前に連絡頂けると幸いです。) 問合せ先: 阿部 TEL:03-5820-3161 h.abe@iwatafont.co.jp
11:45～12:30	(株)インテック 「クラウドソリューションの展望」 * 自由聴講(事前申込不要) 問合せ先: 福島公明 TEL:03-5665-5097 cts_sales@intec.co.jp
12:45～13:30	富士フイルム グローバルグラフィックシステムズ(株) 「ついに登場! 国内初、新聞用完全無処理 CTP プレート」 新聞社の最新ニーズに応える “究極の省資源ソリューション” * 要事前申込 問合せ先: FFGS セミナー事務局 TEL:03-6419-0421
13:45～14:30	日本新聞製作技術懇話会主催 「CONPT セミナー」 ※ P18 をご参照ください
14:45～15:30	三菱製紙(株) 「The Future of Newspaper IS Digital ～Digitalの切り札は印刷だ!」 * 要事前申込(当日空席があれば、予約なしでも聴講いただけます。) 問合せ先: 中尾 TEL:03-5600-1595
15:45～16:30	朝日新聞社 「連帳式デジタル印刷機の導入」 ～朝日新聞社の取り組みのご紹介 * 自由聴講(事前申込不要) 問合せ先: 澤田有司 TEL:03-5540-7483 sawada-yl@asahi.com

◇ 7月22日(水) Bゾーン

時 間	セミナー開催社並びにテーマ、問合せ先
10:45～11:30	コダック(同) 「新聞メディアに新たな付加価値を創出する コダックのインクジェット プリンティングソリューション ～中日新聞社様、中国新聞社様の取り組みに学ぶ新たな可能性～」 *要事前申込 問合せ先：マーケティング部 TEL:050-3819-1300
11:45～12:30	DIC グラフィックス㈱ 「高濃度カラーインキの現状と新製品 高濃度墨インキ PROUD DX のご紹介」 *自由聴講(事前申込不要、但し、お客様に限定) 問合せ先：新聞開発営業部 TEL:03-6733-5067
12:45～13:30	三菱重工印刷紙工機械㈱ 「新型インキング技術」 *自由聴講(事前登録不要) 問合せ先：佐々木健 TEL:03-3744-2951 takeshi_sasaki@ppm.mhi.co.jp
13:45～14:30	日本新聞協会 「新聞印刷ハンドブックから見た最新技術のトレンド」 *自由聴講(事前申込不要) 問合せ先：編集制作部 TEL:03-3591-6806
14:45～15:30	産業経済新聞社 「若者の世界を広げる“気づき”の提案」 *自由聴講(事前申込不要) 問合せ先：佐藤 洋一 TEL:03-3275-9790 y.sato@sankei.co.jp
15:45～16:30	富士通㈱ 「データ活用型デジタルマーケティングによるメディア購読者管理の実現に向けて」 *自由聴講(事前申込不要) 問合せ先：品川善行 TEL:03-6252-2625 shinagawa.yoshi@jp.fujitsu.com

◇ 7月23日(木) Aゾーン

時 間	セミナー開催社並びにテーマ、問合せ先
10:15~11:00	東洋インキ(株) 新カラーマネジメントソリューション 「Charossier™ (キャロシエ™)」の可能性 *自由聴講(事前申込不要) 問合せ先: 経営本部 事業企画部 プロモーショングループ mk-info@toyoinkgroup.com
11:15~12:30	クオード・テック・インク 「L*a*b*を用いた輪転印刷機の色制御の最適化に関して」 *自由聴講(事前申込不要) 問合せ先: TEL:048-839-8831

◇ 7月23日(木) Bゾーン

時 間	セミナー開催社並びにテーマ、問合せ先
10:15~11:00	(株)金陽社 金陽社が提案する「印刷トラブルへの対応」 *自由聴講(事前申込不要) 問合せ先: 藤森隆志 TEL:03-3522-3607 Fujimori@kinyo-j.co.jp
11:15~12:00	日本アグファ・ゲバルト(株) 「Agfa Graphics: drawing an ecological future for Newspaper」 (新聞・将来の環境対応を描いて) *要事前申込(当日空席があれば、予約なしでも聴講いただけます。 ただし、満席の場合は立ち見となります) 問合せ先: 佐藤克英 TEL:03-6420-2010
12:15~13:00	三菱重工印刷紙工機械(株) 「新型インキ技術」 *自由聴講(事前申込不要) 問合せ先: 佐々木健 TEL:03-3744-2951 takeshi_sasaki@ppm.mhi.co.jp

◇ 7月24日(金) Aゾーン

時 間	セミナー開催社並びにテーマ、問合せ先
10:15～11:00	日本経済新聞社 「新聞広告原稿における PDF 運用の実務」 * 自由聴講（事前申込不要） 問合せ先：畠 明生 TEL:03-6256-7471 akio.hata@nex.nikkei.com
11:15～12:00	サカティンクス(株) 「INX 新聞業界スクール」体験講座 高精細・高濃度インキ環境下におけるトラブルシューティング * 自由聴講（事前申込不要） 問合せ先：望月 剛 TEL:03-5689-6666
12:15～13:00	朝日新聞社メディアラボ 「メディアラボの挑戦：2年半の歩み」 * 事前予約制 問合せ先：矢崎 yazaki-t@asahi.com
13:15～14:00	日本新聞製作技術懇話会主催 「CONPT セミナー」 ※ P18 をご参照ください
14:15～15:00	コニカミノルタビジネスソリューションズ(株) 「枚葉デジタル印刷機 bizhub PRESS C1070 の魅力 ＜その導入経緯と使用状況について～朝日プリンテック様の例＞」 * 自由聴講（事前申込不要） 問合せ先：西岡義晃 TEL:03-6311-9051
15:15～16:00	(株)イワタ 「新聞紙面のユニバーサルデザイン＝書体と色覚の配慮手法＝」 * 自由聴講(事前申込不要) （資料の準備上、ご参加者の社名、氏名を事前に連絡頂けると幸いです。） 問合せ先：阿部 TEL:03-5820-3161 h.ab@iwatafont.co.jp

◇ 7月24日(金) Bゾーン

時 間	セミナー開催社並びにテーマ、問合せ先
11:15~12:00	読売新聞東京本社 「新聞用完全無処理 CTP プレートの実用化」 *自由聴講(事前申込不要) 問合せ先: 堀古貴志 TEL:03-3217-8306
12:15~13:00	パナソニックシステムネットワークス(株) 「パナソニックが考えるこれからの新聞印刷工場」 *自由聴講(事前申込不要) 問合せ先: 伊藤、泉原、中沢 TEL:045-938-1613
13:15~14:00	コダック(同) 「海外での3000社を超す導入実績をベースに日本市場向けに最適化された Kodak Sonora XJ プロセスフリー サーマル CTP プレート」 *要事前申込 問合せ先: マーケティング部 TEL:050-3819-1300
14:15~15:00	三菱重工印刷紙工機械(株) 「印刷データ集計・分析」 *自由聴講(事前申込不要) 問合せ先: 佐々木健 TEL:03-3744-2951 takeshi_sasaki@ppm.mhi.co.jp
15:15~16:00	DICグラフィックス(株) 「高濃度カラーインキの現状と新製品 高濃度墨インキ PROUD DXのご紹介」 *自由聴講(事前申込不要、但し、お客様に限定) 問合せ先: 新聞開発営業部 TEL:03-6733-5067

第7回「CONPTセミナーのご案内」

日本新聞製作技術懇話会主催の第7回CONPTセミナーのテーマ並びに講師の方が以下の通り決まりました。多くの方のご参加をお待ちしております。

1. スケジュール

7月22日(水) 午後1時45分 ～ 午後2時30分

テーマ：「最近の展示会にみる新潮流」

講 師：有限会社メディアテクノス 代表取締役

井上 秋男 氏

7月24日(金) 午後1時15分 ～ 午後2時

テーマ：「進みゆくデジタル印刷ビジネス(仮題)」

講 師：一般社団法人共同通信社 経営企画室委員

黒澤 勇 氏

2. 場 所 東6展示ホール内・セミナーブース・Aゾーン

3. 定 員 100名(定員になり次第締め切ります。)

4. 参 加 費 無料

レジュメは、事前にホームページ上にウェブアップいたします。各自印刷してご持参下さい。

5. 申 込 先 日本新聞製作技術懇話会 酒井

TEL：03-3503-3829

FAX：03-3503-3828

E-mail：janps@conpt.jp

公式ウェブサイト：http://www.janps.jp/

CONPTツアー合同再会パーティー開催のご案内 —JANPS 第2日、22日(木)午後5時から—

CONPTツアー参加者による「第4回CONPTツアー再会パーティー」を下記の要領にて開催いたします。

万障お繰り合わせの上、ご出席下さいますようお願い申し上げます。

開 催 日 時 平成27年7月23日(木) 午後5時～7時

場 所 THE BIG LOUNGE (ビッグサイト北コンコースレストラン街)

参 加 費 3,000円

お問合せ先 日本新聞製作技術懇話会 Tel:03-3503-3829

第41回定時総会開く

新会長にサカタインクス上坂義明氏

第41回定時総会を月15日(金)午後2時から日本プレスセンター内で開いた。会員社32社の44人の方々と、来賓として新聞協会から経営業務部長兼編集制作部長・佐塚正樹氏を迎えて議事が進行した。冒頭、芝則之会長が4月9日の臨時評議員会で行った退任表明を説明し、新会長に上坂義明副会長(サカタインクス)の就任を報告した後、開会の挨拶を行った。「今日の会合は、この後開く40周年パーティーとともに特別な会合だ」とし「JANPSまであと2か月余り、盛り上げて次への道しるべを作ってほしい」と述べた。佐塚氏は、40年間の両者の密接な関係を強調し「JANPSを最高の場にするためよろしくお願いしたい。協会も初日にビッグサイト近くで理事会を開くなど盛り上げに力を入れる」と応じた。

芝会長を議長に選出し、評議員会(藤間修一副会長)、クラブ委員会(平井泰之委員長)、企画委員会(矢森仁委員長)、JANPS報告(村松哲コーディネーター)、広報委員会(桑江暢也委員長)からそれぞれ昨26年度の活動を報告。加えて事務局からの同事業、会計、会計監査(清水英則会計監事)の各報告を了承した。議事に入り27年度の①総額2,163万6,000円の予算案②上坂義明新会長以下の役員体制(副会長1名は当面空席)③3委員会メンバー④事業計画案⑤会則の一部改定案——の5議案を原案通り拍手で承認した。JANPS実行予算は別枠の総額5,056万8,000円で、出展料収入見込みを若干上回っている。(事務局)

CONPT 日誌

2月20日(金)～21日(土)第39回国内研修会
～信濃毎日新聞社・塩尻製作センター見学会～(25名参加)

3月6日(金)第3回CONPT技術研究会
(於日本新聞協会8階会議室、58名参加)

4月9日(木)臨時評議員会(出席9名)

4月20日(月)企画委員会(出席9名)

4月21日(火)広報委員会(出席11名)

4月22日(水)クラブ委員会(出席10名)

4月23日(木)評議員会並びにJANPS2015第3回運営委員会(出席11名)

5月15日(金)第41回定時総会(於日本記者クラブ・宴会場来賓1名、会員社32社44名)

創立40周年記念パーティー(於レストラン・アラスカ、162名参加)

5月20日(水)評議員会並びに第4回運営委員会(出席8名)

JANPS2015第2回全体会議
(於日本新聞協会8階会議室48社79名出席)

6月12日(金)第115回技術懇談会～新潟日报社・メディアポート並びにメディアシップ見学会～(24名参加)

6月16日(火)クラブ委員会(出席9名)

6月19日(金)企画委員会(出席8名)

6月23日(火)広報委員会(出席9名)

6月24日(水)評議員会(出席7名)

お悔み

会友の門倉浩一氏(元事務局マネージャー)が5月19日に逝去されました。
謹んでお悔やみ申し上げます。

新着資料

(国内)

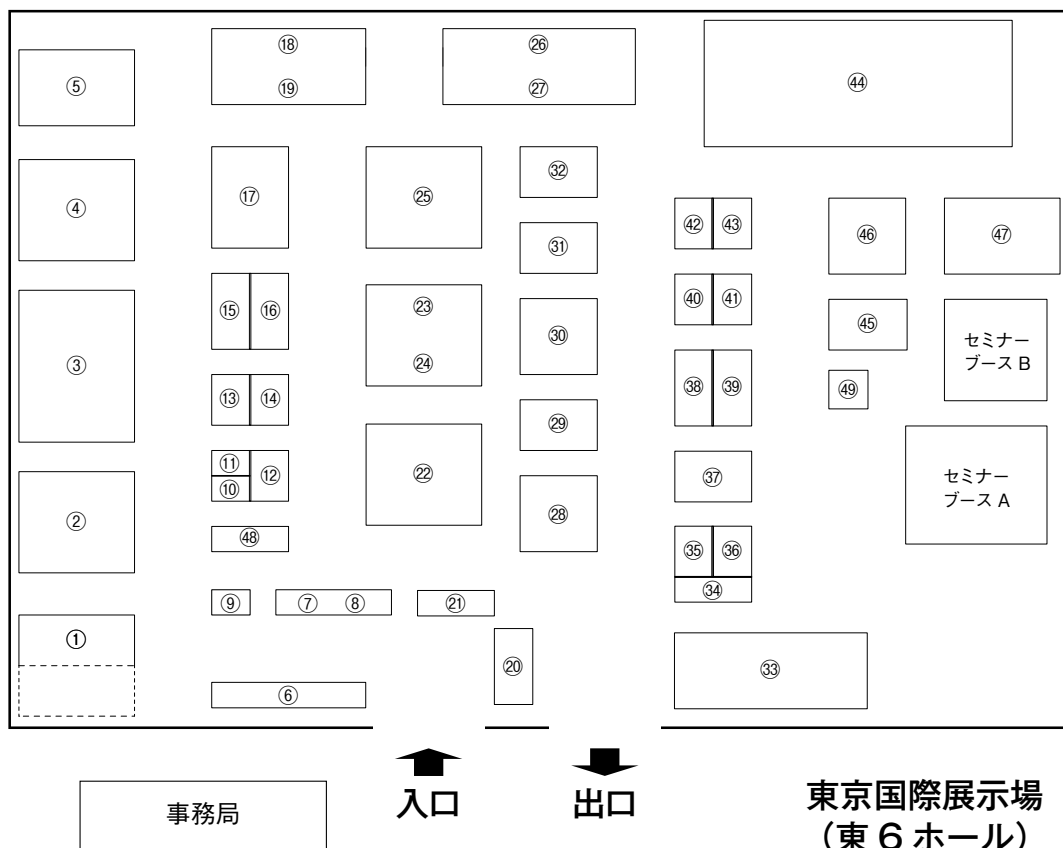
*新聞協会“新聞技術” No230～232

“新聞広告報” 759～780号“NSK経営リポート” No.23～24 “NIEニュース”第79号

*三菱重工業“graph” No.178

JANPS 2015 会場 見取図

JAPAN NEWSPAPER PRODUCTION SHOW



①	日本新聞協会
②	東芝
③	富士通
④	日本電気
⑤	パナソニックシステムネットワークス
⑥	朝日新聞社
⑦	読売新聞社
⑧	読売システック
⑨	毎日新聞社
⑩	日本ユニシス
⑪	モトヤ
⑫	コスモテック
⑬	セイコーアイ・インフォテック
⑭	日本アグファ・ゲバルト
⑮	イワタ
⑯	日本新聞インキ
⑰	方正
⑱	DIC グラフィックス
⑲	コダック
⑳	産業経済新聞社
㉑	日本経済新聞社
㉒	富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ
㉓	東洋インキ
㉔	ニッカ
㉕	三菱重工印刷紙工機械

㉖	サカタインクス
㉗	インテック
㉘	コニカミノルタ ビジネスソリューションズ
㉙	三菱製紙
㉚	西研グラフィックス
㉛	清水製作
㉜	日本ボールドウィン
㉝	ストラパック
㉞	明和ゴム工業
㉟	EIZO
㊱	フジオー産業
㊲	東和電気工業
㊳	金陽社
㊴	東京インキ
㊵	ゴスグラフィックシステムズジャパン
㊶	東洋電機
㊷	クオード・テック・インク日本支店
㊸	ナビタイムジャパン
㊹	東京機械製作所
㊺	第一工業
㊻	椿本チエイン
㊼	KKS
㊽	田中電気
㊾	新聞印刷